

箱根の新たな玄関口： 道の駅“足柄・金太郎のふるさと”オープン

箱根や小田原の観光名所に隣接しながら、今もなおどこか懐かしさが漂う里山風景が広がる南足柄市に県内4番目の道の駅「足柄・金太郎のふるさと」が6月26日にオープンしました。

南足柄市は古くから金太郎伝説のゆかりの地として知られ、箱根山系、丹沢山系の森林資源を持ち、里山や農村の原風景が残っています。足柄の西側にある足柄峠は、奈良時代に、東と西のヒト、モノ、文化を結ぶ交通の要衝として栄えた地域です。

道の駅「足柄・金太郎のふるさと」は、東名高速道路、大井松田ICから車で10分、伊豆箱根鉄道大雄山線大雄山駅から徒歩約21分/車で約4分に位置し、敷地面積5,840㎡、駐車場収容台数75台、館内には農産物直売所や特産品を扱う物販エリア、地場の食材を活かしたご当地グルメを提供する飲食エリア、そしてイベントなどに活用する交流施設の3つのエリアを整備、規模は県内最大で、年間24万人の来場を目指しています。

館内農産物直売所では、地元生産者から届く地場野菜・果物、お茶などの農産物だけではなく、「足柄牛」や「足柄茶」を使用したオリジナル土産品も揃えています。また金太郎伝説や箱根ジオパークの地形地質遺産など地域の歴史や自然を発信。神奈川県が取り組む「県西地域活性化プロジェクト」と連携した特産品やメ

ニューを開発している一方で、非常用電源や貯水タンク、防災資機材を備え、防災拠点も兼ねています。

「道の駅」は、平成5年の制度創設以来、四半世紀が経過し、国土交通省では、2020年からの第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点」として位置しており、全国の道の駅は、7月現在で合計1,180駅となりました。

第3ステージが目指す姿は、2025年を目標に、①多言語対応、キャッシュレスの導入、海外や観光団体との連携により、「道の駅」を世界ブランドへ、②BCPの策定、広域防災拠点により、新「防災道の駅」が全国の安心拠点へ、③子育て応援、大学等との連携企画の実施等により、あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに、としています。

南足柄市矢倉沢と箱根町仙石原を結ぶ県道として整備中の「南箱道路」の開通時期が、昨秋の台風による記録的大雨の影響で山腹崩壊や道路崩落などが相次ぎ、当初は3月だった開通が大幅に遅れています。しかし開通すれば、文字通り箱根への新たな玄関口ができます。箱根地域にある県内の他道の駅2施設（道の駅「箱根峠」、道の駅「山北」）のみならず道の駅「ふじおやま」（静岡県）との繋がりを面的に広げ、元気に稼ぐ地域の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりへの貢献に期待したい。



豊かで滑らかな水と自然に囲まれた道の駅「足柄・金太郎のふるさと」



元気に出迎えてくれるキャラクター